



Data	2025-115
監督	張芸謀 (チャン・イーモウ)
出演	沈騰 (シェン・トン) / 易烊千玺 (イー・ヤンチェンシー) / 張譯 (チャン・イー) / 雷佳音 (レイ・ジャーイン) / 岳雲鵬 (ユエ・ユンポン) / 王佳怡 (ワン・ジアイー) / 潘斌龍 (パン・ビンロン) / 余皚磊 (ユー・アイレイ)

みどころ

中国映画大好き人間で、その方面の情報に詳しいはずの私だが、本作との遭遇は全くの偶然！「満江紅」って一体何？時代は？登場人物は？秦檜（しんかい）って一体誰？

張芸謀監督作品には「2つの系統」があるが、私はそのほとんどを把握！そう思っていたが、「2023年中国興収第1位 900億円超えの驚異的大ヒット！」の本作を知らなかったとは何たる不覚！主人公は効用兵の下級武士・張大と親兵營の副統領・孫均だが、アレレ、これも知らなかったなあ・・・。

本作ではハイライトとなるラスト30分の「満江紅」の大合唱に注目！こんな設定でこんな風に何万の将兵が大合唱すれば、その詞を暗誦できるのは当然。なるほど、なるほど。張芸謀監督の着想はすごい。今なお衰えない彼の構想力に脱帽！

■□■小さな新聞記事から本作を発見！■□■

中国映画大好き人間で映画情報には常に留意している私が、不覚にもチャン・イーモウ（張芸謀）監督の最新作たる本作が劇場公開されているということを全く知らなかった。そのため、2025年11/21（金）の夕刊の小さな記事で本作の紹介をみてビックリ。そこには次の通り紹介されていた。

満江紅／マンジャンホン 中国のチャン・イーモウ監督の歴史サスペンス。南宋が北方の金と激しく戦っていた時代。和平交渉のための極秘の手紙を巡って、朝廷で陰謀が張り巡らされ、下級兵士（シェン・トン）らが巻き込まれていく。上映時間2時間37分でセリフが多く、物語りは二転三転し、めまぐるしく展開する。黒沢明監督の映画を想起させるようなダイナミズムはさすがだ。アップリンク京都など

で公開中。

しかし、満江紅（マンジャンホン）って一体ナニ？大阪では、どの映画館で上映しているの？なぜ私の映画情報から本作は漏れていたの？

そこで週明け 11/24（月）に調べてみると、大阪での上映館は kino cinéma 心斎橋（旧シネマ心斎橋）、期限が 11/27（木）までだとわかったため、直ちに 11/27 のチケットを予約し、真っ昼間から映画鑑賞としゃれこんだ。事前にネット上で本作に関する資料を集めたが、パンフを購入すると、その最初のページには、「2023 年中国興収第 1 位 900 億円越えの驚異的ヒット！巨匠チャン・イーモウが挑む歴史陰謀サスペンス」と書かれていたからビックリ！なぜ、そんな映画を不覚にも私は知らなかったの？もし、この小さな新聞記事を見逃していれば、こんな超話題作を見逃してしまうという不覚を取っていたはずだ。逆に言えば、ぎりぎりセーフで本作の情報に接し、157 分の超大作を堪能できたことに満足しつつ、その幸運に感謝！

■□■岳飛は知っていたが満江紅とは？己の不知を恥じるのみ！■□■

中国史には詳しいと自覚している私だったが、十数年前、「岳飛（かくひ）」を知らなかったことでバカにされてしまった。そして、「岳飛」は北方謙三の歴史小説『岳飛伝』の主人公として有名なことを私はその時に初めて知った。Wikipedia によれば、岳飛伝は『楊令伝』の直接の続編であると同時に、『水滸伝』、『楊令伝』と続く「大水滸伝」構想の最終作に当たる」もの。そして、岳飛伝は「前作『楊令伝』の最後で金と南宋を圧倒しながらも頭領の楊令を喪った梁山泊、軍総師・兀朮の下で江南への版図拡大を図る金、宰相の秦檜により組織の再編成が進む南宋がそれぞれの思惑で動く中、楊令との決闘に生き残った岳飛が岳家軍を再編し、再び金との戦いに臨む」という「前 2 作品と同様に原典の要素や史実をベースとしたオリジナル作品」だ。『水滸伝』がメッチャ面白いのは当然だが、『水滸伝』『楊令伝』から『岳飛伝』と続く、岳飛の物語が面白いのも当然だ。

他方、本作のタイトルとされている「満江紅（マンジャンホン）」って一体ナニ？それについてはパンフレットに収録されている宮崎聖明氏の「満江紅 現代語訳のまえがき」、「原文・書き下し文・現代語訳」が大いに役に立つ。そのパンフレットから引用すれば、それは下記のとおりだ。この「満江紅」は岳飛が詠んだ下記の宋の詞で、岳飛を知っている人なら誰でも知っている上、中国人なら誰でもこの詞を暗唱できるらしい。本作鑑賞時にはその詞が書かれたポストカードまで配られた。寡聞にして私は全然、知らなかったが、本作鑑賞後はそんな己の不知を恥じるのみ！

記

怒髪衝冠 憑闌処 瀟瀟雨歇
 擡望眼 仰天長嘯 壯懷激烈
 三十功名塵與土 八千里路雲和月
 莫等閑 白了少年頭 空悲切
 靖康恥 猶未雪
 臣子憾 何時滅
 駕長車踏破 賀蘭山缺
 壯志飢餐胡虜肉 笑談渴飲匈奴血
 待從頭 收拾旧山河 朝天闕

【書き下し文】

怒髪冠を衝き 闌に憑る処 瀟瀟たる雨歇む
 望眼を擡げ 天を仰ぎて長嘯すれば 壯懷激烈たり
 三十の功名は塵と土と 八千里の路は雲と月と
 等閑にする莫かれ 白く了りたる少年の頭 空しく悲切す
 靖康の恥 猶お未だ雪がず
 臣子の憾み 何れの時にか滅せん
 長車に駕して踏破せん 賀蘭山の缺
 壯志飢うれば胡虜の肉を餐い 笑談渴けば匈奴の血を飲む
 従頭旧山河を收拾するを待ちて 天闕に朝せん

■□■岳飛は知っていたが、「秦檜（しんかい）」は不知！■□■

長い間続いた春秋戦国時代に終止符を打ち、韓・魏・趙・燕・斉・楚の六国を統一した

のは秦の始皇帝。そして、その偉業は、ローマ帝国でシーザーが死亡した BC44 年よりさらに以前の BC221 年だ。しかし、その秦帝国は 2 代しか続かなかった。司馬遼太郎の小説『項羽と劉邦』（77～79 年）では、秦を滅ぼして漢（前漢）を打ち立てた劉邦とその対抗馬となった項羽の姿が描かれていたが、それと同じように中国史上で有名な人物が、南宋のためにとことん金に対抗した岳飛と、金との和平を目指した男、秦檜だが、私は不覚にもこの秦檜のことも全く知らなかった。

漢民族の国たる宋が、異民族の女真族（満州族）の国たる金によって首都開封を占領され、皇帝欽宗が捉えた大事件が、1127 年に起きた「靖康の変」だ。そして、欽宗の弟の趙構が南に逃れて臨安（現在の杭州）に都を構えたのが南宋（以降、宋を北宋と呼ぶ）だ。岳飛は南宋の義勇軍（岳家軍）は、金を攻め、失った北宋の領土を回復しようと戦い続けたが、他方で秦檜ら和平派が南宋の朝廷内で力を持つ中、岳飛に謀反の疑いがかけられ、岳飛は獄中において非業の死を遂げることに。それを受けて秦檜は金との和平を成功させたから、背中に「尽忠報国」と彫った岳飛の無念さはいかばかり・・・。

これによって、以降、岳飛は「外敵に抗い、国に準じた民族英雄」と称せられたが、逆に秦檜は宋史の「姦臣伝」に入れられて「売国奴」とされたそうだ。しかして、『満江紅』と題された本作で、チャン・イーモウ監督は何を描こうとしたの？

■□■チャン・イーモウ監督作品は 2 つの系統を交互に！■□■

チャン・イーモウ監督は、『紅いコーリャン』（87 年）でのデビュー後、「幸せ 3 部作」と呼ばれる『あの子を探して』（99 年）、『初恋のきた道』（99 年）、『至福のとき』（00 年）等の、いかにも「これぞ中国！」という映画と、『HIRO』（02 年）、『LOVERS』（04 年）等の「これぞハリウッド大作！」「これぞ中国版歴史大作、これぞ武侠映画！」という映画を交互に作り続けてきた。

近時の『サンザシの樹の下で』（10 年）（『シネマ 27』108 頁、『シネマ 34』204 頁）、『妻への家路』（14 年）（『シネマ 35』144 頁、『シネマ 44』103 頁）等は前者の系統であり、『金陵十三釵』（11 年）（『シネマ 29』98 頁、『シネマ 34』132 頁）、『グレートウォール』（16 年）（『シネマ 40』52 頁、『シネマ 44』116 頁）等は後者の系統だ。また、私が観た直近の前者の系統のチャン・イーモウ監督作品が、『愛しの故郷』（20 年）（『シネマ 49』240 頁、『シネマ 54』37 頁）と『ワン・セカンド 永遠の 24 フレーム』（『シネマ 5』186 頁、『シネマ 54』58 頁）、後者の系統が『崖上のスパイ』（21 年）（『シネマ 52』226 頁、『シネマ 54』64 頁）、『狙撃手』（22 年）（『シネマ 50』200 頁、『シネマ 54』70 頁）だ。

しかして、本作は日本人は知らないけれども、中国人なら誰でも知っている『満江紅』というタイトルからして、明らかに後者の系統たる歴史大作、武侠映画だ。すると、本作の主人公は岳飛！誰でもそう思うはずだが、いやいやさにあらず！すると、本作の主役は岳飛を非業の死に追いやった岳飛のライバルたる秦檜？たしかに本作に秦檜は登場し、重要な役割を担うが、秦檜も主人公ではない。すると、本作の主役は一体だれ？

■□■主役は張大と孫均！それはなぜ？この2人は何者？■□■

武俠映画が大好きなチャン・イーモウ監督が最初に取り組んだ武俠映画は、『HIRO』(02年)だった。彼のデビュー作『紅いコーリャン』で私はその色彩美に驚いたが、ハリウッド映画と張り合うようなド派手な大作『HIRO』でも、色彩美が際立っていた。そして、『HIRO』の主人公(＝ヒーロー)は、始皇帝の暗殺を狙った実在の人物、荊軻(けいこ)だった。

本作は後者の系統の映画だが、その主人公は岳飛でも秦檜でもなく、親兵營の副統領・孫均(そんきん)(易烊千玺／イー・ヤンチェンシー)と効用兵の下級兵士・張大(ちょうだい)(沈騰／シェン・トン)の2人だ。しかも、本作が設定した時代は、金に奪われた領土回復を目指した英雄・岳飛が処刑されてから5年後とされている。

ちなみに、本作は、「監督チャン・イーモウ」とだけ表示され、脚本者の記載がないが、これは演出のみならず、脚本もすべてチャン・イーモウ監督が仕切ったためだ。しかして、チャン・イーモウ監督のオリジナル脚本による本作は、「宵闇に潜むのは、忠義か裏切りか」をテーマにした「歴史陰謀サスペンス」になるので、それに注目！

近時、私は中国のTV歴史ドラマを数多く観ている。また「中国のハリウッド」と呼ばれている杭州にある「横店影視城」にもいつか行きたいと思っているから、その資料をたくさん集めている。そのため私は中国の王宮の姿に詳しくなっているが、そんな私の目にも、本作冒頭に見る王宮の空中撮影の映像は珍しいものだ。

冒頭に「岳飛が謀殺されてから5年」の字幕が映し出された後、スクリーン上は、王宮内を鎧で身を固めた将兵たちが動き回る中、手鎖された下級武士・張大と親兵營の副統領・孫均が登場するが、そこではじめて金から南宋に和平交渉のためにやって来た特使が殺され、また皇帝あての密書が消えるという「大事件」が勃発したことが明かされる。さあ、その犯人は誰？そんな状況下、宰相・秦檜に呼び出された孫均と張大は、「夜が明けるまでの2時間以内に犯人を探しだせ」と厳命されたから、さあ大変。2人はどのように犯人を探していくの？

■□■歴史陰謀サスペンスの面白さと濃厚さをタップリと！■□■

張芸謀(チャン・イーモウ)監督は自身の名に謀が使われているだけあって(?)「謀」が好きらしい。「謀」は日本でも「謀り事」や「参謀」という言葉に使われるが、「陰謀」になると、少し負のイメージも…？

金に奪われた領土の回復を目指した英雄・岳飛が処刑された4年後、南宋の秦檜が金との和平交渉に臨もうとしている今、金国の使者が殺され、南宋の皇帝に届くはずだった極秘の密書も消えてしまったから、さあ大変！張大と孫均は宰相・秦檜の命から2時間以内に犯人を見つけるよう命じられたが、そこから始まる陰謀の数々は？

私は現在BS4Kで放映中の中国時代劇TVドラマ『三国志外伝 愛と悲しみのスパイー 風起隴西一』を録画して鑑賞しているが、同ドラマの登場人物は多い上、陰謀、騙し、裏

切りが満載のストーリーをフォローしていくのは大変だ。同作の時代は、魏・呉・蜀の三国が覇権を争う「三国時代」の紀元 228 年。蜀の丞相・諸葛孔明は 2 代目皇帝劉禪を補佐しながら執拗に“北伐”を目指し、強力なスパイ組織「司聞曹（しぶんそう）」を組織して重大な任務を与えていたが、北伐に大失敗。孔明も蜀も大打撃を受けたが、これは司聞曹の内部に裏切り者（二重スパイ）がいたため！？今や「三国志」は日本では「キングダム」の名前で若者にも大人気だが、その「外伝」として、そんな「愛と悲しみのスパイ」の物語があったとは！？

それと同じように、157 分の長尺となった本作でも、全編にわたって陰謀と裏切り、そしてあっと驚くその舞台裏が次々と明かされ、一人また一人と登場人物が消えていく（殺されていく）ので、その歴史陰謀ミステリーの展開に注目！また、そんな複雑極まりない展開の中で、キャッチフレーズとされている「暗闇に潜むのは忠義か裏切りか」という、「満江紅」と題された本作最大のハイライトに向かって突き進んでいくので、一瞬も見逃すことなく、その展開に注目！

■戦闘シーンなし！合唱シーンあり！なるほど、これなら！■

「始皇帝モノ」や「三国志モノ」が面白いのは、第 1 に「歴史モノ」としての展開の中に各国の興味深い人物像が登場すること、第 2 に、そんな個性のぶつかり合いの中で必然的に（やむを得ず）戦いが起こるため、勝敗をかけた激烈な戦闘シーンが登場することだ。私は本作も当然そうなることを期待していたが、残念ながら、意外にも本作には戦闘シーンは全くなし！それに代わってまさに陰謀と裏切りの連続だから、ある意味で疲れること間違いなしだ。

したがって、本作を鑑賞する面白さとしんどさは、TV ドラマ『三国志外伝 愛と悲しみのスパイ ー風起隴西ー』を見ている時と同じだが、ラスト 30 分、孫均が秦檜の元へ乗り込み、2 人の侍女として仕える藍玉（許静雅）と緑珠（蔣鵬宇）を倒し、秦檜の背中に剣を突きつけた後、「満江紅」をすべての将兵に「合唱せよ」と命じたところから異様な盛り上がりになっていくので、それに注目！もちろん、兵は将の命ずるままに

、将は宰相の命ずるままに従わなければならないのは当然だが、こんな形で王宮に集う将兵たち全員が「満江紅」を大合唱する姿は明らかに異様！しかし、その盛り上がりはすごい。そんな風に、大合唱された「満江紅」の詞が、何万、何十万の将兵たちの頭の中に刻み込まれたのも当然だ。

岳飛が読んだとされる「満江紅」の詞が、岳飛の死後 4 年後にこんな形で大合唱されれば、その詞が中国人なら誰でも暗唱できるほどになったのは当然だし、岳飛が今なお南宋を救った英雄とされているのも当然だと納得！

2025（令和 7）年 12 月 5 日記